

健康やがぐんま

vol. 42
2023 Autumn

P2-5

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023ぐんま 開催報告

P6-8

財団からのお知らせ

- ・群馬県健康福祉部長を表敬訪問しました
- ・各種キャンペーンを実施しました
- ・令和5年度 群馬県地域保健研究発表会を開催します
- ・健康づくり研究助成「あさを賞」募集を開始しました
- ・メディア取材を受けました
- ・情報統計研修会を開催しました
- ・2023年第33回ぐんまマラソンに協賛しました



リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023ぐんま 開催報告

ぐんまからのメッセージ
(RFLJ2023ぐんま 10.8閉会式より)

リレー・フォー・ライフは、がん患者さんやそのご家族を支援し、がん征圧を目指すチャリティイベントです。

「がん患者は24時間、病気と向き合っている」という想いを共有し、ともに歩き語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいとするこのイベントは、現在、世界32か国約4,500か所で開催、日本では現在48か所で開催されています。

リレー・フォー・ライフ・ジャパンぐんまは、2013年に初めて開催されて以降、参加者、寄付額ともに日本有数の規模に成長してきました。

台風や新型コロナウイルス感染症の影響により、2019年から2021年までの3年間は大規模なリレーイベントが休止となりましたが、昨年は開催期間を1日に短縮してALSOKぐんま総合スポーツセンターふれあいグラウンドで開催。今年は10月7日(土)～8日(日)の2日間にわたり、5年ぶりに本来の形である夜越えで開催することができました。

朝焼けのドーナパープルを目指し、一緒に歩める仲間がいるということに喜びを感じ、独りぼちではないという心強さを改めて感じました。

昨日、今日と、たくさんの方々にお越しいただいたおかげで、5年ぶりにこのリレーイベントを夜越えで開催することができて、本当に心から感謝しております。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になった今、昨年度に比べて徐々に経済活動が再開され、今年はより多くの方にお会いすることが出来ました。まだまだ完全に安心できる状況ではありませんが、色々なことがいい方向に進んできていると実感しています。

本日、こうして5年ぶりに夜越えのリレーイベントを開催できたのは、これまで支えてくださったすべての方々のおかげです。家族や仲間、医療従事者の方々、このイベントに協力してくださった方々、そして、このリレー・フォー・ライフ開催にあたり尽力いただいた実行委員の皆さん、学生ボランティアの皆さん、そしてチームとして、個人として参加していただいた、たくさんの方々の皆さん、本当に感謝しています。

リレー・フォー・ライフは、サバイバーとケアギバーの想い、それを支えるたくさんの方々の想いがひとつになって、がん征圧に向けて声を上げ、発信できるイベントです。

皆様のこの声を群馬から日本全国へ、そして世界中へ広げていきましょう。

RFLJぐんま実行委員会



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2023ぐんま

10/6(金)

気持ちのよい青空の下で前日準備が始まりました。明後日までよい天気を持ちますように。



RFLJぐんまは多くの学生ボランティアに支えられています。今年も、群馬医療福祉大学、群馬パース大学、県立県民健康科学大学等の皆さんにご協力いただきました。

10/7(土) 14:00

当日もまぶしいほどの快晴となり、67チームの参加者が若々しい芝生の上に集まりました。大島RFLJぐんま実行委員長の開会宣言で、いよいよRFLJ2023ぐんまがスタートしました。



14:15

長いリレーウォークのスタートを切るのは、がんと闘ってきたサバイバーを称えるサバイバーズラップです。大きな拍手や掛け声の中、笑顔で参加チームの皆さんに手を振っていました。その後、来賓の皆さまや、参加チームの面々も後に続きます。



14:45

ステージからは、ボランティアで参加して下さった出演者のショーや、楽器演奏がリレーウォークをしている皆さんに力を与えてくれます。



子供が楽しめるようなブース出展も多く出ていました。



財団職員も運営スタッフとしてサポートします。



イベントレポート!

17:30

朝の穏やかさとは変わって、強い風が吹いてきた夕方17:30頃、ルミナリエに火をともしせるか心配でしたが、少し経つと私たちの思いが届いたかのように、風は当初よりも弱まり、無事灯をともしることが出来ました。



18:30

優しいピアノ演奏の後、静寂の中エンブレムテーブルのセレモニーが始まります。大切な人を想い出す時間は、ゆったりと流れていきます。来年も仲間とこの場に集まれることを静かに祈ります。



日本対がん協会 阿蘇敏之氏をゲストにサバイバーストークを開催。サバイバーとしての経験談に耳を傾けました。



夜も交替しながら多くの人が歩き続け、明け方には綺麗なドーンパブルを見ることが出来ました。

10/8(日) 6:30

2日目も気持ちのいい朝となりました。ラジオ体操第1から第2の音楽が流れた時、会場からは驚きの声が上がっていましたが、皆さんののびのびと体操をしてくださいました。ファイナルラップまでの気力を注入です。



7:30

ステージイベントは2日目も盛りだくさん。笑いやフレッシュさに後押しされ、最後の力を振り絞ります。力を分けて下さったステージ出演の皆さん、どうもありがとうございました。



10:00

2日間のリレーの最後であるファイナルラップを歩き切ると、RFLJ2023ぐんまのゴールを迎えます。来年も必ず会場で集まりましょう!



財団からのお知らせ

群馬県健康福祉部長を表敬訪問しました

複十字シール運動開始にあたり、令和5年8月1日(火)群馬県地域婦人団体連合会(結核予防婦人会)の大竹会長のほか、代表者と財団職員が群馬県健康福祉部唐木部長を表敬訪問しました。

複十字シール運動の趣旨や県内の結核の現状などを説明するとともに、キャンペーンで配布するグッズをお渡しし、複十字シール運動への御協力をお願いしました。



各種キャンペーンを実施しました

9月のがん征圧月間に合わせ、群馬県庁昭和庁舎をリレー・フォー・ライフを象徴する色であるパープルにライトアップしました。また、今年から9月の結核予防週間には臨江閣をレッドにライトアップしました。

10月には臓器移植推進月間及び乳がん月間に併せ、臓器移植医療への認知と理解が進むことや、乳がん検診の受診率向上を目指し、群馬県庁昭和庁舎、臨江閣、高崎市保健所(乳がん月間のみ)をそれぞれのシンボルカラーであるグリーンとピンクのライトアップを行い、高崎駅構内にデジタルサイネージを掲出しました。



がん征圧月間(9月)



結核予防週間(9月)



臓器移植推進月間(10月)



乳がん月間(10月)

令和5年度 群馬県地域保健研究発表会を開催します

この研究発表会では、研究発表会を通じて保健衛生の向上を図り、県民の健康増進に寄与するため、また保健従事者の交流を目的として、毎年群馬県と財団が主催しているものです。今年度は下記のとおり開催することが決定しました。各関係機関にご案内を送付しますので、ぜひご応募ください。

日時 令和6年3月19日(火) 13:00~16:00

会場 群馬県庁29階 291会議室



令和4年度群馬県地域保健研究発表会の様子

健康づくり研究助成「あさを賞」募集を開始しました

今年度も県内行政機関、健康福祉機関・団体・試験・研究所、県医師会等職能団体、大学などを対象に、健康づくり研究助成「あさを賞」の募集を行いました。「あさを賞」は前橋市内で小児科を開業していた巨尾雅子医師が保健福祉に役立たいと私財を投じて、1987年に基金を設立したのが始まりです。

県民の健康増進、疾病予防等に役立つものとして選考委員会が認めた研究課題に対し、助成を行い、現在までに235の研究課題が選出されています。

選考委員会は12月中に開催する予定です。



令和4年度あさを賞選考委員会の様子

メディア取材を受けました

6月に子宮頸がん検診の重要性を特集した新聞記事の取材を、7月には健診結果の見方について特集した新聞記事の取材を受けました。

新型コロナウイルス感染症が社会に及ぼす影響がだんだんと弱まっている中、皆さんの検診についての関心は再度高まっているのではないのでしょうか。

記事では、財団の新しくなった子宮頸がん検診車を紹介したほか、財団診療所医師が定期健診の結果を確認することの重要性を分かりやすく説明しました。

これからも財団はメディア取材を積極的に受け、「がん検診・定期健診の重要性」と「がんに関する正しい知識」をみなさまにお伝えしていきます。



令和5年6月27日付 上毛新聞



令和5年7月25日付 上毛新聞

情報統計研修会を開催しました

8月24日(木) - 25日(金) 公益財団法人予防医学事業中央会と共催で、予防医学事業中央会全国支部の情報統計部門職員を対象とした「第40回全国情報統計研修会」を開催しました。同研修会は、各支部の活動が社会的信頼を得るには各種データを統計学的に正確に整理することが重要とし毎年開催しているものです。

会場のエテルナ高崎には全国から約85名の情報統計部門の職員が集まり、各分野に分かれて事例発表を行ったほか、情報交換会では多くの職員が他支部の職員と活発に情報を交換していました。



2023年第33回ぐんまマラソンに協賛しました

令和5年11月3日(祝・金) 正田醤油スタジアム群馬をメイン会場に行われた第33回ぐんまマラソンに協賛、ブース出展を行いました。

無料血管年齢測定、脳年齢測定に加え、子供向け健康クイズの実施とともにがん検診に関するリーフレットを配布するなどして、参加者、来場者にごがん検診の定期的な受診を呼びかけました。また、当財団から17名の職員やその家族が各種マラソンに出場し、完走を目指しました。



群馬県がん患者団体連絡協議会 ご紹介⑮

15 がんサロン桔梗

桔梗の花言葉は、「変わらぬ愛」「誠実」といわれています。

日本では、古くから親しまれてきた花の一つであり、馴染みも深く家紋にもなっています。

「がんサロン桔梗」は、がん患者とその家族が集まり、不安や悩み等々を分かち合い、情報交換する場所です。サロンの開催中のみならず、いつでも「がん相談」を受け付けて、がん患者とその家族に寄り添う活動も行っております。

サロンに参加された方々が、落ちついた気持ちと、がんて私一人が苦しんでいるのではないと思われるだけでも価値あるものと確信しております。その時々に応じて身近な「がん情報」も随時提供しております。サロン会場には、「がんに関する資料」を各種多数用意しております。お持ち帰り自由です。

がん患者とその家族以外の方々も、ご自由にお気軽にご参加ください。

- ①日時 毎月第3日曜日 13:30~15:30
- ②場所 桐生市昭和公民館 2階 談話室

TEL 0277-43-5056

桐生厚生総合病院 道路北側の二層式駐車場をご利用ください。

参加無料。予約不要。個人情報厳守。

途中入室、途中退出OKです。



財団に入職して4年目になりますが、初めてリレー・フォー・ライフの夜越えを経験しました。正確には、夜一度家に帰り、仮眠をとり再度出勤したのですが、暗い中家を出たにもかかわらず、運転中微かに空が明るくなった時には、少し焦ってしまいました。「どうか、ダウンパープルに間に合いますように」と祈りながら運転した結果、見事な紫色の空をグラウンドで見ることができ、とてもよい思い出となりました。(H)

健ヤがぐんま

vol.42 2023 Autumn

編集●公益財団法人群馬県健康づくり財団 総務部 企画広報課
発行●公益財団法人群馬県健康づくり財団 理事長 須藤 英仁
〒371-0005 群馬県前橋市堀之下町16-1
TEL.027-269-7811 FAX.027-269-8928
印刷●上毎印刷工業株式会社

